

1 学校教育目標

- やさしい子（豊かな心で思いやりをもち、友達と協力し合える子ども）
- げんきな子（心身ともに健康で、明るく、実行力のある子ども）
- かんがえる子（自分から進んで学び、よく考えて行動できる子ども）

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもへの教育活動を通して、児童・保護者・地域に誇れる学校 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが楽しく・のびのび・安心して過ごせる学校 ・基礎基本の確実な定着を目指して指導する学校 ・人間としての生き方・あり方を学び、思いやりのある学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○21世紀の変化の激しい時代を自らの考えにより、生き抜くことのできる児童 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的学習内容を習得し、さらに自らの良さを伸長させる児童 ・他者を思いやり、人間味豊かな生き方ができる児童 ・基本的生活習慣をしっかり確立できる児童
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○教育公務員として、常に誇りと自覚を持つ教師 <ul style="list-style-type: none"> ・常に研究と修養に励み、児童の実態に即した教育を行う教師 ・地域・保護者の思いや願いを自覚し、家庭・地域と共に歩む姿勢をもち実行する教師 ・子どもから尊敬される教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<学力向上>

成果

・校内研究の質が高まり、授業力が向上し、児童が落ち着いて学習に取り組むようになった。

課題

- ・区学力調査における通過率は、国語 72.8%、算数 72%。達成基準を国語 7.2 ポイント算数 8 ポイントも下回った。区の学力調査やワークテスト等の情報を分析し、一人一人の児童がどんな学習内容につまずいているかを把握するとともに、放課後補充教室の指導効果を向上させること。また、そだち指導・夏季補充教室と有機的に関連させて指導の効果を高める。
- ・全校で共通化した授業規律をより徹底させる。また、教科指導専門員を活用し足立スタンダードのフル活用を図るとともに、若手研修を計画的に運営し、ベテラン教員の指導ノウハウを若手教員に伝え生かしていく。区小研には全職員が参加し、教科の専門性を高めていく。
- ・1年担任については、幼保小交流研修年2回を完全実施する。小中連携授業研究では、「育てたい児童像」を明確にしながら年6回以上の授業研究会を実施し、教科ごとに研修を深める。

<児童がより安全に、安心して学ぶことができる学校づくり>

成果

外部機関や学習支援ボランティア等と連携・活用し学習面・生活指導面で支援の必要な児童の指導を充実し、児童の学校生活に改善が見られた。

課題

- ・学年主任を中心に学年会を日常的に開き、児童の学習面・生活指導面での変容や課題を学年内で共有する。また、教員相互に知恵を出し合う中で、ベテラン教員の学級経営についてのノウハウを生かし、より安定した学級経営の実現を図る。
- ・学年会での情報共有・活用を基盤として、いじめと暴力0を目指す。生活指導全体会を年間3回以上、いじめ防止委員会を年間10回以上実施し、いじめの未然防止と早期対応に勤める。いじめ対応マニュアルをフル活用するとともに保護者との連携を図り、生活指導面のトラブル即時解決を図る。
- ・日常的なコミュニケーションスキルや教科の学習に困り感をもっている児童に、組織的・計画的な支援を充実するために、担任が対象児童についての個別指導計画を作成する。また、特別支援教室と連携を図り、専門的な視点からの分析を試みたり、他校の優れた実践を取り入れたりする。

<保護者・地域と共に子供を育てる学校づくり>

成果

外部講師の活用による授業の実施やPTAとの連携によるマラソン大会を実施した。

課題

- ・特別活動部が中心となって、4年生以上で登校時間帯、南門でのあいさつ運動に取り組む。また、管理職によるあいさつ、PTAによるあいさつ運動と連携を図りながら運動を充実していく。
- ・宿泊行事も含め校外学習や外部講師を活用した授業のお実施を、各学年で充実する（全学年で合計30回以上の実施を基準とする）。また、体験を単元指導計画に明確に位置づけ、体験したことを子供の学びに十分に生かすように指導の手立てを工夫する。
- ・投力向上・長なわ・短なわ、外部講師を招喚する授業、外遊びの奨励については、より組織的・計画的に実施していくことが指導効果を向上させるうえで重要な課題である。3間（時間・空間・仲間）の設定による一年間を通した体力向上を心掛け、児童の体力とスポーツを楽しむ心の育成に取り組む。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	児童がより安全に、安心して学ぶことができる環境を確立する。	○	○	○	○	○
3	保護者や地域と共に子供を育てる学校づくりを進める。	○	○	○	○	○
4	プログラミング教育を進める。	○	○	○	○	○

5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
国語科、算数科における基礎基本の定着		国語	85.0%	10月に再調査を行う					
算数			85.0%						
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	花丸教室 (放課後 補習教室)	全学年 算数・国語 学力テスト 目標値未滿 単元テスト 正答率70% 未滿	毎週月・ 金 放課後3 0分 (教科は 隔月交 代)	【指導者体制】 担任＋専科サポートメンバー 4名 【取組みのねらい・目的】 つまずきをさかのぼり、演習 を中心に個別もしくは少人数 指導。進度は各個人で異なる が、復習問題は、期間内に終 了するように、1日に進める 目安は伝える。 【使用教材】 区調査の過去問及び類似問題 プリント、ベーシックドリル	学力定着度 確認テスト (10月 2月実施)	通過率85%			

2 継続	サマー スクール	全学年 算数国語 学力テスト 目標値未満 各学年 10 名 程度。	夏季休業 日中の 10 日間 各日 50 分	<p>【指導者体制】 学年の先生+他学年の先生+ 専科サポートメンバー4名</p> <p>【取り組みのねらい・目的】 担任の少人数指導のもと、進 める。区学力調査復習問題集 を進めながら、前学年の学習 内容について、復習をしながら、 定着を図る。復習問題が 終わった時は、夏休みの宿題 冊子等で、現学年の学習内容 の復習を行い、定着を図る。</p> <p>【使用教材】区学力調査復習問 題集・夏休みの宿題冊子</p>	区学力 調査 再調査	目標値通過			
3 継続	家庭学習の手引 き発行・活用	全学年 全員	年3回 4月、9 月、1月	<p>【取り組みのねらい・目的】 自学自習力の向上 家庭学習強化月間とし、 宿題の提出率を各教科で確認 する。提出できない児童に対 しては、その日のうちに放課 後指導等で課題を終了させて から下校させる。</p>	宿題提出 状況調査	宿題提出率90%			
4 継続	夏季自習教室	希望者 教科は自由	夏季休業 中の10 日間	<p>【指導者体制】 学年・他学年の先生+管理職1 名+専科サポートメンバー4名</p> <p>【取り組みのねらい・目的】 低・中・高別に教室を用意し、 教員を配置するが、基本的に 自習を進め学力を向上させる。</p>					

5 継続	かけ算九九補習	算数 第2学年以上	年2回 個人面談 中	【指導者体制】 専科サポートメンバー4名 【取り組みのねらい・目的】 3年生以上の学年を対象に、 かけ算九九の定着ができてい ない児童を対象に専科教員が 少人数で指導にあたる。 【使用教材】 かけ算九九表・かけ算プリン ト・100ます計算プリント	かけ算定着 テスト	正答率100%			
6 継続	校内研究	教科は調整 中	各学年 授業研究 1本	【取り組みのねらい・目的】 教員の授業力を向上させ、児 童の学力向上につなげる。					
7 継続	小中連携 合同研修	各教科	年7回	研究授業 授業参観 情報交換					
8 新規	プログラミング 教育研修	総合的な学 習の時間等 算数	半期に 2回程度	児童用タブレットを用いた プログラミング教育	週案 授業観察	教員の 80%以上 授業実施			

重点的な取組事項－2		児童がより安全に、安心して元気に学ぶことができる環境を確立する。								
A 今年度の成果目標		達成基準		実施結果		コメント・課題		達成度		
児童にとって安全・安心で元気な学校生活を確立する。		保護者アンケート「安全・安心に関する項目」：肯定的な回答90%以上								
B 目標実現に向けた取組み										
項目		達成基準		具体的な方策		実施結果		コメント・課題		達成度

いじめのない学校生活の充実	いじめ解決率100%	<ul style="list-style-type: none"> いじめ相談箱やHyperQ-U検査によるいじめの早期発見および早期解決 開発的教育相談的手法を取り入れ、自己肯定感の醸成を図りいじめ防止を図る。 			
安全・安心な学校の充実	学校施設の安全に関するアンケート：肯定的な回答85%以上	<ul style="list-style-type: none"> 日々の施設点検 施設の不備に関する早期改修 			
あいさつの徹底	児童評価で元気よくあいさつができる児童80%以上	管理職・複数の教員・PTAによる校門での挨拶（毎日） 4年生以上によるあいさつ運動（蒲原中学との連携を含む） 来校者へのあいさつを各学年で指導			
体力向上	自己目標を80%の児童が達成	Beyond2020の活用 遊びを通じた体力向上			

重点的な取組事項－3		保護者や地域と共に子供を育む学校づくりを進める。			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
保護者や地域と共に子供を育む学校づくりを進める。	学校評価アンケート「家庭や地域との連携に関する項目」：肯定的な回答90%以上				
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

保護者との共育体制の確立	授業参観、保護者会等の肯定的評価85%以上	・授業参観、保護者会の内容の改善充実			
P T Aや開かれた学校づくり協議会を中心とした協働体制の確立	学校評価アンケート・家庭や地域との連携に関する項目：肯定的な回答85%以上	・各部活動への協力 ・各学年の活動との連携			
体験的学習場面や地域の教材化や地域の人材を生かした授業づくり	校外学習・講師による授業等体験的学習を各学年5回以上	・TGG など体験的な校外学習の実施 ・P T A・開かれた学校づくり協議会との連携による学習場面の設定			
オリンピック・パラリンピック教育の組織的計画的推進	オリンピック・パラリンピック教育の組織的計画的推進の自己評価85パーセント以上	オリ・パラ教育の実践自己評価85パーセント以上			